



夏だ！プールだ！たのしいな！（尾川中央保育園）

あかわ *Sakawa* 議会だより

67
2016.8.1

発行 高知県佐川町議会

6月定例会

contents 目次



みんな仲良し（尾川中央保育園）

補正予算 2

議案質疑 3

防災対策は（一般質問） 5

議会懇談会 13

一般会計 6月補正予算 856万円の 増額補正を可決

6月定例会は、6月3日から9日までの会期で開かれました。
平成28年度の補正予算をはじめ、条例制定、契約締結など議案15件、報告2件を審議し採決の結果、賛成全員で全件可決しました。

平成28年6月補正予算 (単位: 円)

会計名		補正額	補正後の額
一般会計		856万	74億8,859万
特別会計	国民健康保険	△427万	19億7,583万
	介護保険	△212万	18億4,114万
	後期高齢者医療	△397万	2億1,241万
	水道事業	1,466万	4億3,063万



6月定例会で決まりました

条例制定

竹村分家旧竹村呉服店の設置及び管理に関する条例の制定

上町地区にある竹村分家旧竹村呉服店の耐震及び改修工事完了後、一般公開及び活用するための施設として、設置及び管理に関して必要な規定を定める。

佐川町おとし滞在施設の設置及び管理に関する条例の制定

佐川町への移住希望者が本町での生活を一時的に体験する施設の設置及び管理に関して必要な規定を定める。

物品購入契約締結

小型動力ポンプ積載車

(契約の方法)
指名競争入札

(契約金額)
2295万8970円

(契約の相手)
株式会社 藤島

株式会社 藤島

総合行政システム機器更新及びASPサービス導入業務にかかる機器等購入

(契約の方法)
随意契約

(契約金額)
2014万2千円

(契約の相手)
株式会社

RKKコンピューターサービス

株式会社

工事請負契約締結

霧生閣防災拠点施設(仮称)整備工事

(契約の方法)
一般競争入札

(契約金額)
2億181万6360円

(契約の相手)
晃立・大川特定建設工事共同企業体

晃立・大川特定建設工事共同企業体

佐川町立黒岩中央保育所新築工事

(契約の方法)
一般競争入札

(契約金額)
2億23万2千円

(契約の相手)
株式会社 響建設

株式会社 響建設

佐川町総合文化センター町民体育館耐震補強工事

(契約の方法)
一般競争入札

(契約金額)
6880万3560円

(契約の相手)
株式会社 響建設

株式会社 響建設

(契約金額)
2676万2400円

(契約の相手)
扶桑電通株式会社

扶桑電通株式会社

高知営業所

ここを

聞いてみた

議案質疑

提出議案に対して、各議員から出された質問の主なものを紹介します。

一般会計補正予算

坂本議員 黒岩中央保育所新築事業の地方債の内訳について聞く。

総務課長 公立保育所にかかる施設整備事業の財源として、建設費の50%の起債をすることで国から交付金として補填される。

下川議員 病後児保育の1室にエアコンを追加した理由は。

健康福祉課長 定員3名程度で開始しているが、子どもの容態によって、1室で見られない状況もあり追加した。

下川議員 認定こども園のニーズがあるのか。

健康福祉課長 ニーズは今はない。こども園を運営するためには幼稚園免許が必要。

下川議員 教育振興基本計画策定委託料の内容は。

教育長 29年度から5カ年の計画を策定するため。計画策定会議の意見取りまとめ等業務全般を委託する。

下川議員 加茂小中学校特別支援学級の負担金はどうなっているか

総務課長 日高村、佐川町の児童数で案分する。

森議員 介護ロボット導入の概要は。

健康福祉課長 特別養護施設「わかきの桜」に、移乗用ロボットを導入するもので、100%国からの補助がある。

中村議員 介護ロボットは本当に役立つのかという検証がされたのか、他の施設でも導入可能か。

健康福祉課長 実際に試したかどうかは確認できてない。要望があり、国に予算があれば予算計上する。



介護ロボット導入予定の施設



450年続く瑞応盆おどり

物品購入

中村議員 無形文化財保存補助金の内容は。

教育次長 瑞応盆踊りの450年祭への補助金だ。

下川議員 ASPサービス導入業務の内容は何か。随意契約になった理由は。

総務課長 災害時に住民のデータが全部紛失するのを防止するため導入する。別の業者にすると費用も多くなり、職員の負担も増えるので、取引業者との随意契約とした。

永田議員 ネットワーク構築委託業務の予定価格と落札価格の差額が大きいが原因は何か。予定価格の積算が甘いのではないか。

総務課長 予定価格は業者から見積もりを取りその平均額で算出した。

水道会計補正

森議員 補助金の減額理由と補填のための企業債の内容は。

産業建設課長 補助金は各自治体からの要望が多く、減額された。そのため不足分を企業債で補う。企業債は辺地債と簡易水道事業債を考えている。

条例

永田議員 旧竹村呉服店の管理に関する条例17条



お試し住宅 管理も大変！

で「必要な事項は町長が別に定める」とある。その活用については地元グループと合意の上で決めるべきだ。

町長 みなさんと協議しながら進める。

永田議員 お試し住宅の雑草などの維持管理はどこがやるのか。

チーム佐川推進課長 入居しているところは入居者が、空いている施設は町が管理する。



工事中の文化センター体育館

工事請負契約

坂本議員 黒岩中央保育所の建物は少し西に向いていて暑いことが予想される。その対策はできているか。

健康福祉課長 風通しが良い場所でもあり、今後現場の方でも対策を考えたい。

岡村議員 園舎の屋根の素材、および床の部材は何か。

町長 屋根は鋼板で断熱材を入れている。床はヒノキである。

西村議員 設計に当たっては保育現場の声を聞いてたか。

健康福祉課長 所長や職員を交え何回も設計業者と話をした。

中村議員 文化センター体育館耐震診断の内容は。耐震工事でこの先どれくらい使えるか。

教育次長 細かく強度計算をし、耐震性のあるなしを判断した。50〜60年は十分使える。



6月 補正予算ピックアップ

佐川町地域介護福祉空間設備事業

216万円

介護施設において介護従事者の負担軽減を図るため、介護ロボット導入に係る補助金を交付する。

教育委員会事務局費

342万円

教育振興基本計画を整備するため、策定委員会及び策定支援業務委託に係る費用。

日高村佐川町学校組合負担金事業

116万円

平成29年度から加茂小学校に特別支援対象児童が増加するため、特別支援学級用教室を準備する。

8人が町政を問う

ここが聞きたい



松浦 隆起 議員

災害時の情報発信

SNSで情報発信を

チーム佐川推進課長 関係課と協議し進める

災害が発生した時に情報を提供できるように、日頃からツイッターやフェイスブックなどのSNSで情報を発信し、つながりを持つ人を増やしておくことが大事だ。取り組みを始めるべきだ。

片岡チーム佐川推進課長 SNSは、観光情報やイベントなどの情報発信について、有効な手段であり、防災の面でも重要なツールと考えている。今後、状況を見極めながら関係課と協議をして進めていきたい。



スマホで手軽に情報確認

ふるさと住民票制度

創設を

町長 長い目で検討したい

町外で暮らす町の出身者などに、町の情報やサービスを提供する「ふるさと住民票制度」というものがある。移住促進事業の1つとしても、この制度を創設してはどうか。

堀見町長 この制度を提案している「構想日本」から、直接打診があり、検討したが、名乗りは上げていない。まじめにおもしろくチームさかわを作っていくときにどういう形の取り組みがいいか、2、3年、長い目で見て今後、チームさかわの作り方、一体感の醸成の仕方を前向きに検討してみたい。

放課後児童クラブ

定員増の検討を

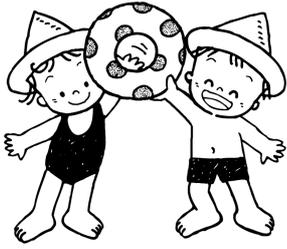
教育長 来年度に向けて検討したい

佐川小学校で行っている放課後児童クラブは、現状から見て慢性的な定員オーバーとなっている。ある意味の待機児童がいる状態にある。定員の増加とそれに伴う施設の拡充について、検討するべきだ。

川井教育長 受け入れる施設をどう確保していくのが、一番の課題だ。現在の放課後児童クラブについて、希望者全員を受け入れる方向を目指し、施設面など、どう対応すればいいのか、来年度に向けて検討していきたい。



放課後も安心子育て



防災対策の

進捗状況は

総務課長 着々と進めている

坂本 玲子 議員



熊本地震では甚大な被害が出た。避難所への発電機の設置やトイレの洋式化の進捗状況、がれき処理、仮設住宅用地についてはどうか。

横山総務課長 拠点避難所への発電機の設置は完了した。トイレの洋式化は拠点避難所では52%が完了し、残るは佐小、斗小、黒小となっている。また集会所のトイレの洋式化には補助事業があるのでこれを活用して推進していきたい。がれき処理は仮置き場の協定を結んでいる。仮設住宅用地等については今年度計画を策定する。

就学援助制度

改善を

教育長 前向きに検討する

子どもの貧困の連鎖を食い止めるためには就学援助制度は大切な施策だ。佐川町の就学援助を受けている子どもの数は県平均の半分以下だ。子どもたちに必要な支援を届けるため家庭の実態把握をする必要がある。また制度の周知のため、お知らせ文への配慮と所得基準を明記すること。新年度用品費用の3月支給の検討を。

川井教育長 家庭の実態について統計のデータとして持つことは可能だ。また制度の周知の仕方については、先進的な取り組みを参考にしている。新年度用品費用の3月支給に関しては可能であれば前向きに検討する。



早期の洋式化推進を



公立保育所

保育士の採用を

健康福祉課長 役場全体で検討

ある。公立保育所の正規職員を増員すること。また新たな施策が必要になった保育士もきちんと雇用すること。私立保育所にも公立保育所に準ずる対応ができる施策の拡充を。

国の調査で、保育所で死亡事故は無認可保育所では認可保育所の45倍も多くなっている。劣悪な条件のもとで育てられる子どもは命の危険さえ

岡崎健康福祉課長 公立保育所の正規職員の人数は確かに少ない。クラス担任は正職1人を配置できるとは体制が理想だ。役場全体で考える必要がある。私立保育所に関しても、どこにいても同じ保育ができるよう役割を果たしていきたい。



生命と成長を見守る保育士



森 正彦 議員

熊本地震でも、死亡した大半の人は家屋の下敷きが原因であり、住宅の耐震化を促進すべきだ。佐川町の住宅の耐震化の現状と目標、そして推進方策は。

住宅の耐震化 促進を

産業建設課長 自己負担軽減で耐震化促進

公文産業建設課長 佐川町耐震改修計画では、耐震化の目標を90パーセントとしているが、平成20年度以降の耐震工事は50件程度にとどまっている。耐震化を進めるため啓発パンフレットの配布や個別訪問でも事業説明をしている。また、耐震診断の無料化や設計補助の上乗せで自己負担を軽減して耐震化促進をしている。

工事費の平均的な金額は約140万円で補助金が約90万円あるので自己負担は約50万円程度の見込みだ。代理受領制度や融資制度については説明を尽くしていきたい。

防災サロン 全集落開催すべき

町長 スピード感を持って対応



耐震化で安心を

佐川町では、地震や台風、大雨のときどのような行動をとるか、家族で話し合い確認しておきましようという、我が家の災害に備えるチェックシート、我が家の避難行動計画というシートができています。

町の全戸がシートで確認し対策をとれば被害は大きく減少すると思う、その周知徹底をどうするのか。

横山総務課長 昨年度は町内7地区で防災サロンを開催した。本年度は10地区での開催を目標としている。シートは各家庭に配布したい。

災害に備え集落で話し合うことは、一番効果の上がる方法だ。この防災サロンを全集落で開催するつもりはあるのか。サロンの開催を年10地区開催する計画のようだが、それでは全地区で終わるのに10年かかる。もっとスピード感を持って取り組むべきだ。

堀見町長 危機管理室でも、いろいろ試行錯誤しながら考えているが、総務課長と私も入ってどうしたらもっとスピード感をもって進められるか方策を考えたい。



防災意識を全町で



下川 芳樹 議員

自伐型林業に 副業必要では

産業建設課長 定住する上で重要なポイント

地域おこし協力隊が自伐型で生計を立てるには数々の課題があると思う。林業収入のみで生活できる経営方針はあるのか。また、副業としての集落営農や集落営林への取り組みをどのように捉えているか。

公文産業建設課長 昨年度の試算で補助金がなければ、一人当たり50ヘクタールの山林が必要。年間1500メートルの作業道を開設し、390立方メートルの木材を搬出すれば4百万円程度の収入となる。

また、協力隊が自伐型で定住する上で副業は重要なポイントだ。集落営農への参加で担い手となれば定住につながる、地域と連携した集落営林の形が出来る上がる。



定住できる自伐型を

自伐型林業で 河川の防災対策を

産業建設課長 防災対策の一翼を担えるように

自伐型林業で河川周辺の山林を適正かつ計画的に管理することで、森林の持つ多面的機能を向上し河川への土砂流入や雨水の到達時間を緩やかに保つ具体的な対策を進めてはどうか。

公文産業建設課長 自伐型林業の普及による山林の多面的機能の回復、5〜10年後には天然のダムとして機能発揮につながり防災対策の一翼を担えるように事業を推進したいと考えている。

集落活動センターの 連携を

チーム佐川推進課長 4地区が集まる場を設ける

来年度から3地区の集落活動センターが開所し、あわせて4カ所の拠点で地域の発展を目指す取り組みが進んで行く。地域単位での取り組みではメリットが十分に発揮されないので、センター同士を結びネットワーク作りを行ってほしい。

片岡チーム佐川推進課長 分野間の連携、地域間の連携の拠点として集落活動センターが機能することとは、分野、地域単位で取り組みよりも相乗効果が生まれる。今のタイミングでセンター同士のつながりを強め連携体制を構築することは、今後の各地域にとって大変有意義で大切だと考えている。4地区が集まる場を設けていきたい。



県との連携が大切（知事との意見交換会）



徳弘 初男 議員

荷稻町有林

今後の計画は

町長 自伐型モデル林として整備

町は荷稻にある町有林で地元協力により自伐型林業のモデル林となるよう取り組みを進めている。今後の計画をどのように考えているか。

堀見町長 荷稻の町有林4ヘクタールを今後自伐型モデル林として整備をしていきたい。地元の協力で作業道等が取り付けられる状況になった。今年度は町有林までの作業道の開設を行っていききたい。次に搬出間伐のための高密度な路網を整備し間伐を進めながら搬出をして山を育てていく。そして人工林を所得につなげていく。



国土調査

31年度に終了か

国土調査課長 1年程度延伸の可能性

国土調査の進捗状況はどうか。また平成31年度には終了するのか。
広田国土調査課長 佐川町の国土調査事業は平成3年度に着手した。平成26年度までに登記及び現地調査が完了した面積の合計は約91平方キロメートルで、進捗率は93パーセントだ。進捗率は高知県で53パーセント、国では51パーセントとなっている。全国的に要望が増えているため、佐川町の事業の完了は1年程度延伸する可能性がある。



松崎地区での調査状況

太陽光発電

事業状況は

チーム佐川推進課長 町収入・約8百万円



順調に進んでいる太陽光発電事業

新エネルギー対策として、西佐川駅東隣に開設された太陽光発電事業は2年目となる。27年度の売電等の事業状況はどうか。
片岡チーム佐川推進課長 昨年度の発電状況は発電量が約154万キロワットで一般家庭の約420世帯分となっている。売電の収入は約5千5百万円で、ほぼ順調に事業が進んでいる。町の収入は地代、固定資産税、配当金を合わせて、約8百万円の見込みだ。



中村 卓司 議員

道の駅 具体的な取り組みは

町長 検討委員会を開催

道の駅開設への具体的な取り組みを聞く。

片岡チーム佐川推進課長道の駅は町の物産の販売や情報発信に重要と考える。総合計画の中でも整備、運営方法を検討することになっている。国も地方創生拠点の形成に向け、支援を打ち出している。平成32年度中の開業を目指す。

堀見町長 9月には検討委員を公募し、一回目の検討委員会を開催する予定だ。

2千名弱の署名を添え、道の駅建設を求める請願書が議会へ提出され採択された。また5月には道の駅講演会が開催され、町長は4～5年後には開設したいとの発言もあった。町として今後の



にぎわう須崎市道の駅

スポーツで 健康づくりを

町長 健康増進の町づくりを進める

スポーツで健康づくりを推進することは医療費の軽減にもなると思う。佐川町の現状と今後の進め方はどのように行うのか。

堀見町長 スポーツで健康づくりは大切であり、中期的な目標を定め進めていくよう相談している。プール活用のスポーツ推進や健康増進、さらにはスポーツクラブのあり方も含め、町全体で考えている途中である。今後はスポーツ、健康、食育も含め健康増進の町づくりを進めていく。

認知症対策

ニーズの把握と対応は

健康福祉課長 課題を整理し対応

高齢化に伴い、認知症が大変な問題になりつつある。認知症の早期発見、早期治療が必要だ。本人や家族の方々の今のニーズをどのように把握しているか。さらに地域での見守り活動への対応は十分に行われているのか。

岡崎健康福祉課長 地域包括支援センターの窓口で、細かく個別のニーズを捉え、課題を整理し対応している。それに加え、百歳体操、ふれあいサロン、あつたかふれあいセンター等で認知症予防や地域での見守り活動が行われている。今後は認知症カフェの取り組みや町民の全体的な認知症に対する啓発も図っていく。



歩いて健康づくり ノルディックウォーク
(コスモス農協ニコニコ会の皆さん)



今橋 寿子 議員

2年前から取り組んでいた第5次佐川町総合計画が策定され、計画書の別冊が全町に郵送で配布された。その反応はどうか。また、今後計画だけ

第5次総合計画

具体的な取り組みは

チーム佐川推進課長 **住民とともに進める**

で終わらないための具体的な取り組みはどのようにするか。

片岡チーム佐川推進課長 総合計画を策定する過程で地域や世代の方々と一緒にワークショップを行ってきた。冊子には賛否両論あるがよかつたと思っっている。佐川町の未来を実現するため、冊子に掲載されている取り組みを、住民の皆さんとともに進めていきたい。



多くの偉人が学んだ蘭林邸

文教のまち

新たな取り組みは

教育長 **ものづくり教育を行う**

先人たちの功績のもと「文教のまち佐川」と言われる。町として誇れるものは何か。総合計画を踏まえ、今改めて力を入れ取り組むことは何か。

川井教育長 誇れる点は、人材育成を重視し、偉大な先人を数多く輩出してきた教育的風土だと思う。

第5次佐川町総合計画を踏まえて地域の人材、文化的資源を活用し、ふるさと教育とものづくり教育を行う。本年度は尾川小学校をモデル校として木製の動物型ロボットを作成する。

あったかふれあいセンター

職員の処遇改善を

健康福祉課長 **役場全体で考える**

あったかふれあいセンターの職員の企画力行動力等は他の見本となっており内はもとより他県からの視察者も増している。人材確保のため、処遇を考える必要があるのではないか。

岡崎健康福祉課長 現場の運営スタッフは一般の事務職の臨時とは違い管理責任者でもある。役場全体で考えていきたい。

その他の質問
○食育と学校給食について



センターを笑顔で支える職員



堀見 昌平 議員

職員採用 適切な対応を

町長 中長期的な計画を策定

堀見町長が就任してから、毎年、定年退職を回る人数を採用している。平成27年度の募集要項には4名募集に対して6名採用をしている。その理由は何か。
また佐川町の人口は減少している。職員の採用が、この先町にとって財



斗賀野へ来て、もうすぐ50年

政面でマイナスとならないうように適切に対応すべきではないか。

横山総務課長 平成27年度末の定年退職者4名の補充のため、採用人数4名で掲載をした。その後、役場から高北病院へ出向している職員から退職願が提出され、1名増員。また教育部門の強化を図るために、教育委員会の職員を、さらに1名増員とした。

堀見町長 計画的にしっかりと職員の数管理をしていかなければいけないと思っている。中期的、長期的な視点に立ったうえで定数管理の計画を今、策定を進めているところだ。

畜産試験場

移転の陳情を

町長 当面は難しい

高知県の家畜の飼養頭数は平成5年と比較して10分の1程度に減少している。
畜産試験場に、高齢者と母子家庭、子育て世代のシェアハウスを中心とした高吾北地域に必要な施設をつくるため、試験場の移転を県側に陳情している。
堀見町長 高知県と話したが、引き続き試験場として使い続けるという回答だ。移転の陳情は当面は難しいというふうに見える。

在宅介護のあり方

検討必要

健康福祉課長 国・県の動き注視

国は介護保険制度改正に伴い、介護療養型医療施設を平成29年度末までに廃止する予定だ。在宅介護が増えていくのは現実であると思う。町は福祉だけでなく介護、医療、各専門分野の関係者とともに、どういった在宅介護のあり方が必要か検討すべきではないか。

岡崎健康福祉課長 介護保険制度改正に伴い要支援1・2の方は地域支援事業へ移行した。今までと同様のサービスを行う。また介護療養型医療施設が廃止され在宅で暮らすとなると、いろんな社会保障の整備が必要になってくる。佐川町としては、国・県の動きが重要になってくるので、それを注視していく。
堀見町長 幅広く民間の力を借りながら、今後の佐川町の介護、高齢者対策、母子家庭の対策、検討を進めてみたいと思う。



在宅介護を支えるデイサービス（斗賀野荘）

《 住民の中へ・・・地区別に議会懇談会を開催 》

議会懇談会報告

5月10日から24日の間に、町内の5地区で議会懇談会を開催しました。

議会からは28年度当初予算の概要や、定例会等の内容について説明をし、住民からは議会や交通、災害など幅広い意見や要望が寄せられました。問題別に内容を整理して報告します。



パワーポイントでわかりやすく

議会について

◎安採法案の陳情書の取り扱いはどうだったか。
6月議会への陳情は、議会運営委員会で話し合い、議長に諮問し不受理となった。

◎常任委員会の傍聴はできないか。
委員会や委員長の判断で決定する。

◎町の将来展望は。
意見はさまざまだが、子どもからお年寄りまで町民が幸せになることが、目標となる。

◎職員の育成をいかに必要がある。
直接の指導は、町がやるべきだと考える。



くるま座で懇談

◎議会傍聴者へ行政報告を配布してはどうか
執行部と協議をする。

◎地域での議会報告会をしてはどうか。
地域での報告会は実際行ったことがあるが、あまり人が集まらなかった。議会懇談会への参加や議会だよりを読むことをお願いしたい。

◎議会懇談会へ自治会長の出席を要請してはどうか。
来年度から改善の方向で検討する。

交通

◎尾川地区集落活動センターへの橋が狭くマイクローバスが入らない。改善を。



入口が狭いたいこ岩への橋

◎黒岩地区 山本から四ツ白の道路が狭い。県道300号線の改良を。

◎尾川地区 高平の県道と国道との交差点に信号を。

交通関係の意見に関しては地域で話し合い、地域から要望を上げることが必要。町には伝えた。
(現地視察実施)

災害

◎仮設住宅建設予定地は今年度計画予定である。

◎地震対策はどうなっているか。
補助金を出し家屋の耐震工事を推進している。



交通量の多くなった高平の交差点



すじかいを入れて補強

◎河川
西山川 堆積土砂の撤去を。
横山川 工事で川幅が狭くなり、水があふれるようになった。改善を。
長竹川 堆積土砂の撤去を。



洪水が心配される長竹川

河川関係の意見に関しては、地域で話し合い、要望を上げることが必要。状況を町に伝えた。
(現地調査実施)

— 住民の信頼に応えられる議会へ —

産業

◎上町に大型バス対応の駐車場設置を。

◎地場産センタートイレが汚い。新設のトイレを。現地調査実施。町に意見を伝えた。



駐車場不足の地場産センター

◎タコ公園のトイレが危険だ。

◎現地調査実施。旧式トイレであるので改善が望ましい。



古くなったタコ公園のトイレ

◎加茂農村公園にトイレがなく子どもが遊べない。

◎地域で課題を話し合い、要望をこつこつと必要。



あまり使われていない加茂農村公園

◎あおぞら公園のトイレがよく詰まる。何とかならないか。

◎町に確認したところ、補助金の縛りがあり、あと3年くらいはいつにもできない。修理しながら使ってほしいとの返答があった。

◎地域で生活ができる産業の育成を

◎道の駅やふるさと納税の返礼品への活用なども含め、町に提言こつこつ。

◎中野川流域、小さな拠点づくりで補助を

◎地域での話し合いが大事だ。小さな拠点づくりのソフトの補助金はある。

◎集落活動センターへの人員の配置はどうか

◎議会での質問に答え、集落支援員制度を活用して、施設に常駐し、中心的に活動に携わる人材を確保するという答弁があった。



改修がまれる青空公園トイレ

教育

◎佐川高校の生徒が減少している。地域で支援をしていくはどうか。

◎みなさんと知恵を出していききたい。



盛りあげたい佐川高校

◎早期に図書館建設を。

◎図書館整備委員会からの答申で、スピード感を持って取り進むように提言されている。

◎私立保育所の運営が大変だ。将来的に保育所をどうしていくつもりか。

◎議会での質問に対し、どこでも同じような保育ができるよう、これまでも補助をしてきたが、今後も役割を果たしていきたいと答弁があった。



地域の保育を守ろう!

健康

◎食育で健康づくりをめざし町民運動に。

◎総務委員会でも食育について学習をしている。検討をしていきたい。

◎健康づくり、病気予防のため、スポーツジムはできないか。

◎健康づくりに関して、さまざま意見が議会でも出されている。今後とも追及していきたい。



ちいさい時から食育を

あれはどうなったか？

あの質問のゆくえ

No.38



松崎の病後児保育施設

子育て支援対策 病後児保育の早期実施を

(平成23年6月定例会)

次世代育成支援行動計画の中に、病後児保育事業が含まれている。共働き世帯が多い現状を考えると欠かせない事業である。早期に実施すべきだ。

(松浦議員)

〈関連質問〉 坂本議員

健康福祉課長 答 弁

検討を重ねていく

町内関係機関、近隣の実施機関に相談をしているが、条件的に実施できる機関がない状況である。今後の課題として検討を重ねていく。

平成28年6月開設

安心して子育てできる環境づくりの一つとして、旧高北病院院長官舎を改修し、病後児保育施設として使用することになり、平成28年6月に開設した。

どう
なった

あなたが選んだ議員の
仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は9月9日(金)午前9時
開会予定です。傍聴においでください。

編集後記

「世界で一番貧しい大統領」ホセ・ムヒカ氏はそのスピーチの中で「何か魔法のようなものが社会を変えてくれると考えないでください。あなたと同じ志を持つ人はたくさんいます。仲間を見つけて集まってください。そして闘ってください。」と述べています。まず声を出すことが大切です。その声を町政に届け、町民の幸せのため、より良い町政が行えるようにしていくのが議員の仕事です。

みなさんも、議員の活動を知るために、ぜひ議会の傍聴においでください。この議会だよりも、読んでもらえる、読みやすい紙面をと日々研鑽しています。感想をお待ちしています。

坂本 玲子

議会広報編集委員会

委員長	森 正彦
副委員長	片岡 勝一
委員	邑田 昌平
委員	坂本 玲子
委員	下川 芳樹

※わかりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。

地域で がんばる

は、地域のために活動している組織や人がいます。その活動を紹介します。トを当て紹介します。今回は、活動を始めて30年を超えた食生活改善推進協議会長の渡辺寿賀子さんにお話を伺いました。



会長の渡辺さん

食生活改善推進協議会



子どもたちとお弁当作り（黒岩小学校）

— 活動を始めてもう30年と聞いていますが、

— そうですね。一生懸命で長かったような短かったような。

— 会員は何名ですか。

— 現在約40人、女性ばかりです。今後は男性にも入ってもらいたいですね。

— 始めたころの地域の食生活はどんな状況でしたか。

— 当時は食事の栄養バランスが悪く生活習慣病が増加していました。また朝食をとらない子どもの数も多く、何とかしなければと感じ、もぐもぐモーションング運動を始めました。



食生活改善推進協議会の皆さん

— 今の活動の重点はどんなことですか。

— 学校へ指導にいかせてもらうことで、朝食をとらない子どもの数は減ってきています。しかしまだまだ子どもたちの食事が乱れています。子どもの食生活改善に力を入れていきたいです。

— また、高齢者に心配される生活習慣病の予防、特に野菜の摂取と減塩に力を入れています。

— 町の祝賀会等で皆さんの料理を頂きますが、とっても美味しいです。

— そりゃーもう30年ですから。地域の食材を使った伝統の料理も大切に次世代へ繋いでいきたいと思っています。



斗賀野よさこいクラブの皆さんとの料理教室

— 食事って本当に大切です。

— 楽しいし、健康のもと、幸せな暮らしのもとですものね。

— ありがとうございます。

— これからもみんなの幸せのためによろしくお願ひします。

— あなたの周りに、佐川のまちの元気のために活躍されている「組織やグループ」をぜひ、ご紹介下さい。